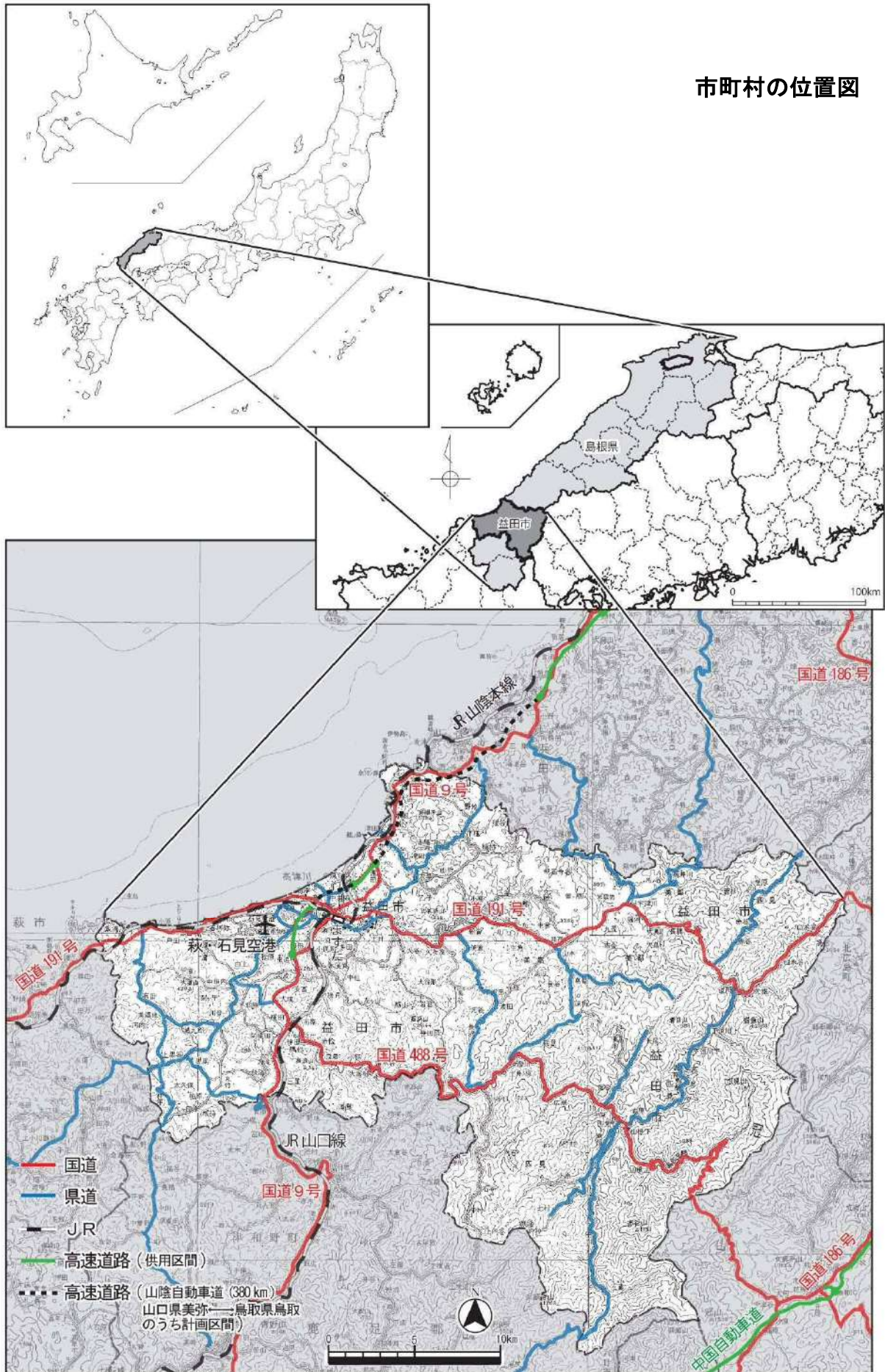
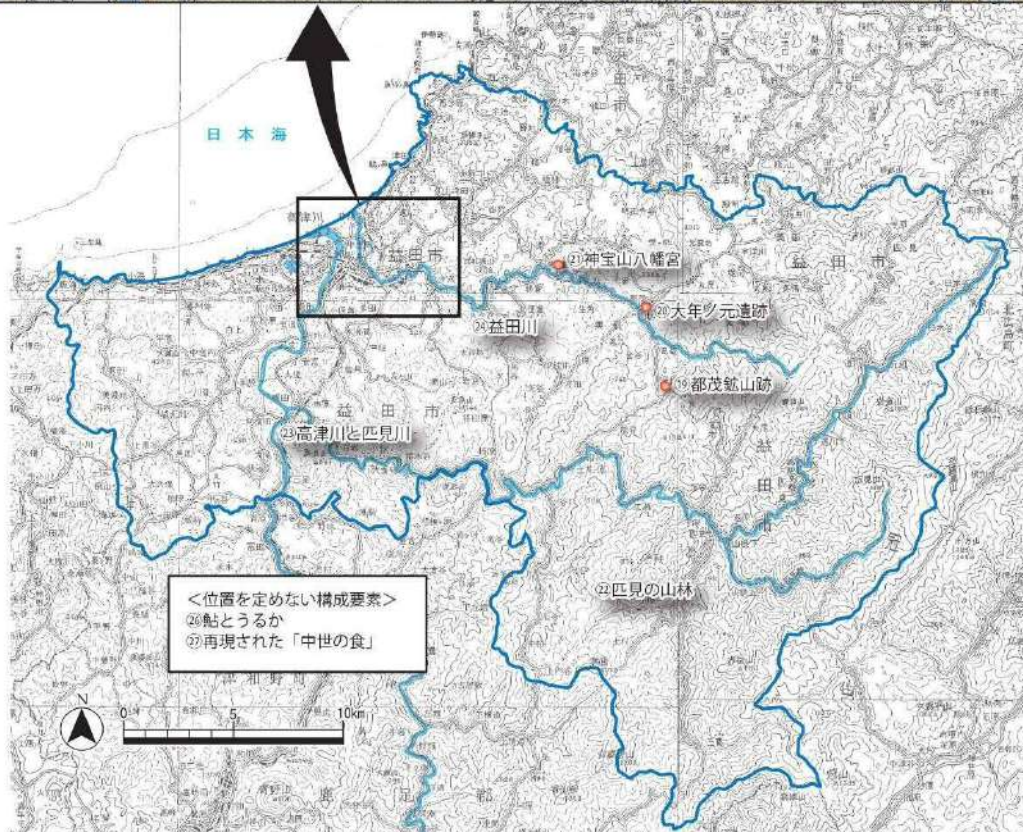
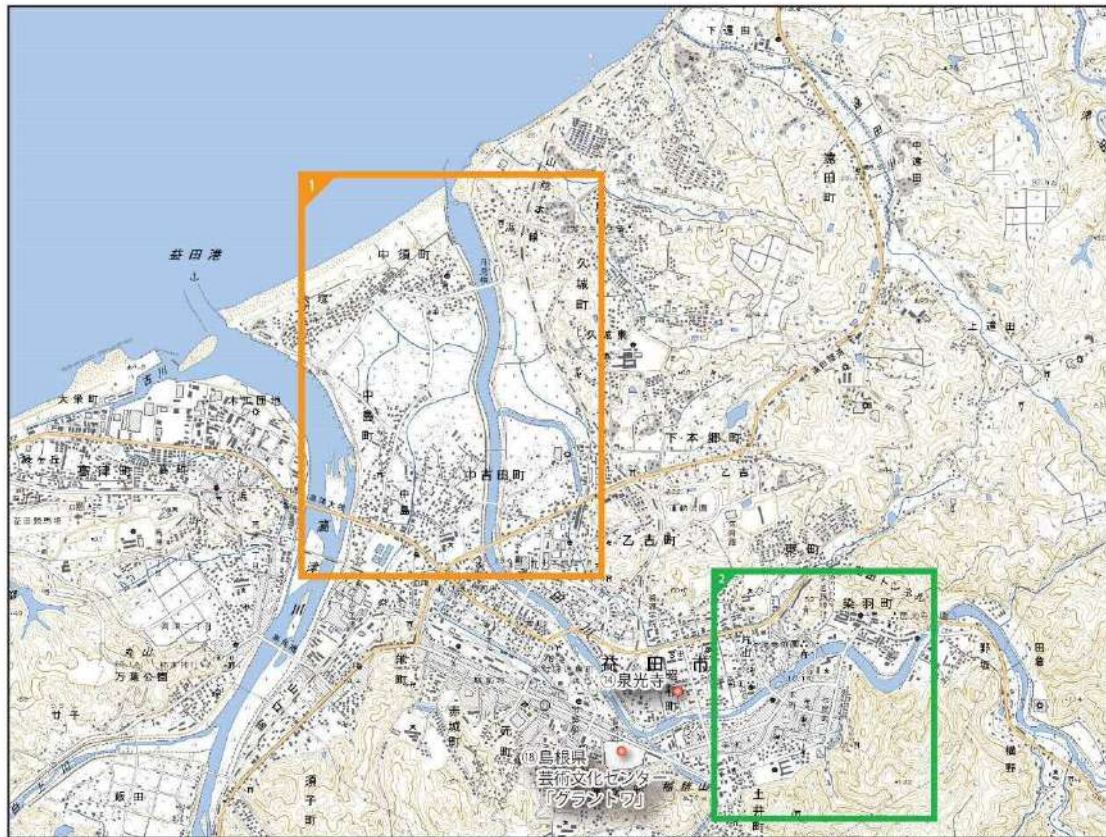


① 申請者	島根県益田市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	ちゆうせいにほんのけっさく ますだをあじわう ちほうのじだいにかがやきふたたび		
中世日本の傑作 益田を味わう ー地方の時代に輝き再びー			
④ ストーリーの概要			
<p>海に国境のない時代ー中世。山陰地方の西端のまち益田は、その地理と地域資源を活かして、大きな輝きを放っていました。</p>			
<p>人々は、中国や朝鮮半島に近い地理と、中国山地がもたらす材木や鉱物などの地域資源を活かして、日本海交易を進めました。領主益田氏は、自らも交易に積極的に関与し、優れた政治手腕を発揮して平和を実現しました。経済的繁栄と政治的安定のもと、東アジアの影響も受け、どこにもない文化が花開きました。</p>		<p>「逆さ地図」に見る益田市の位置（富山県作成の「環日本海・東アジア諸国図」に加筆）。益田は、東京や京都とは離れているが、日本海を通じて中国や朝鮮半島に近い。</p>	
<p>現在の益田にはその歴史を物語る、港、城、館の遺跡と景観、寺院や神社、町並み、庭園、絵画、仏像などの一級品がまともに残っています。</p>			
<p>このように、時代と地域の特性を活かして輝いた益田は、中世日本の傑作と言え、全国でも希少な中世日本を味わうことのできるまちです。</p>			
			
萬福寺庭園		益田氏の館・三宅御土居跡	

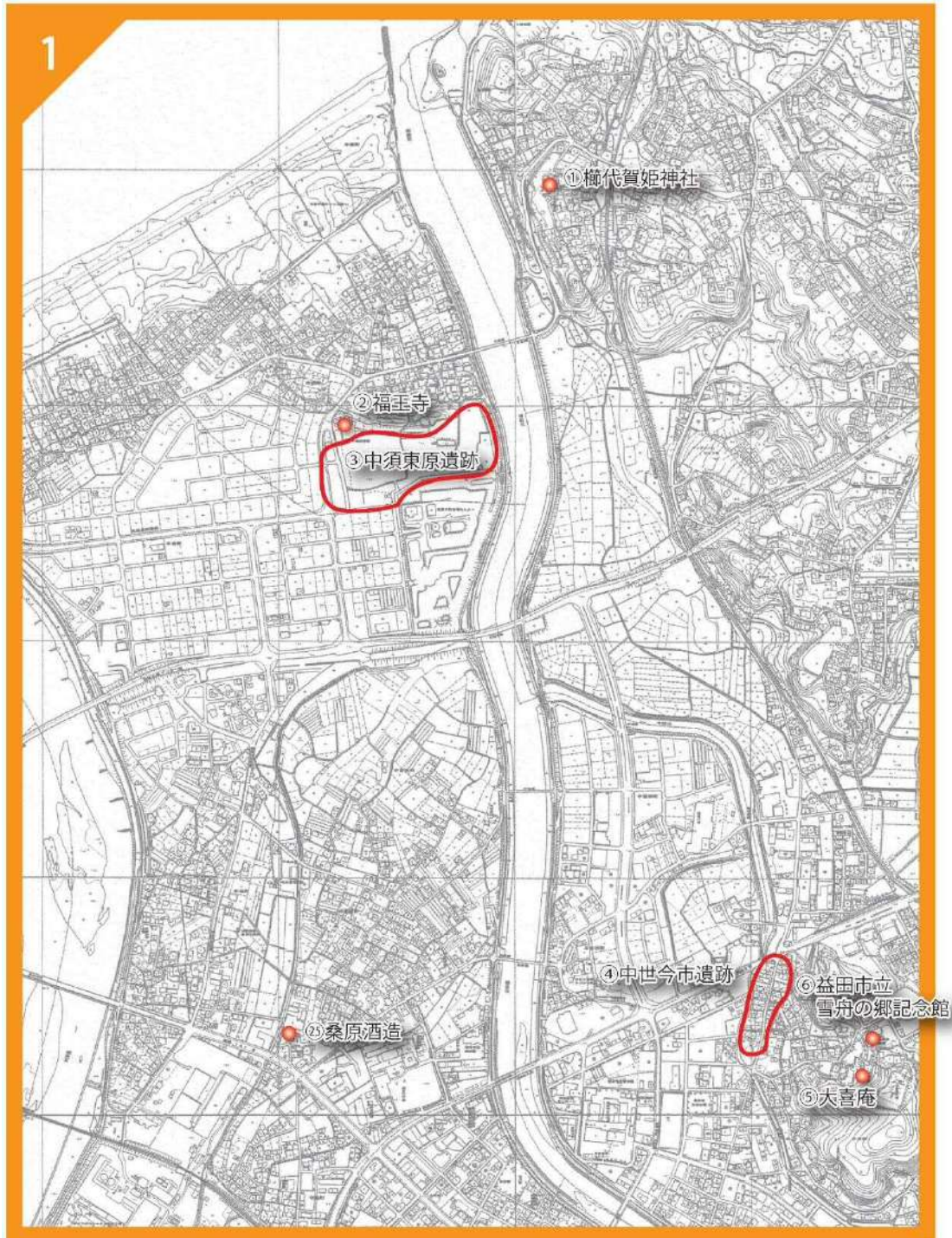
市町村の位置図



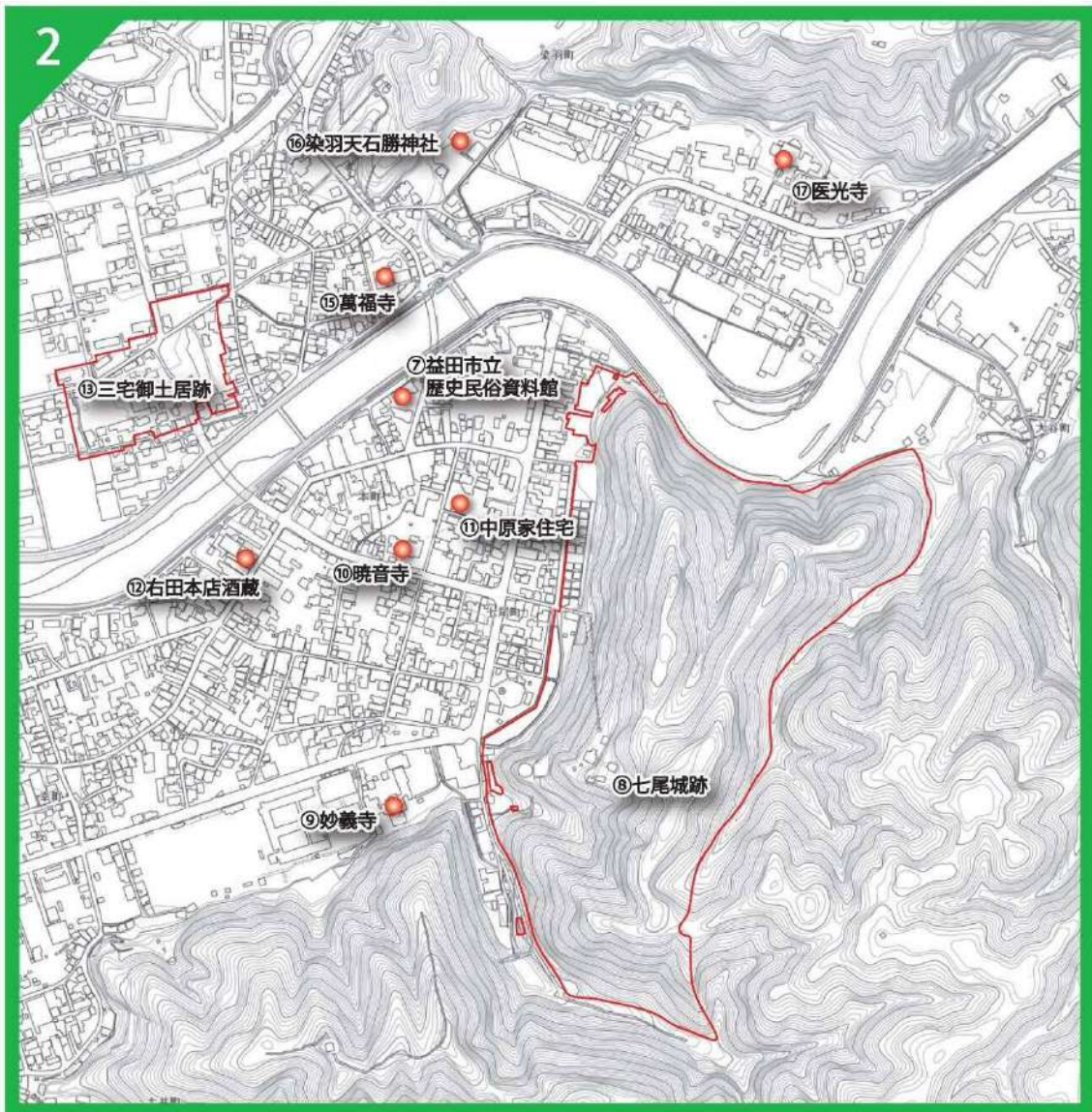
構成文化財の位置図



構成文化財の位置図 (吉田地区)



構成文化財の位置図 (益田地区)



ストーリー

【地方の雄・益田】山陰地方の西端に位置する益田市は、奥深い中国山地を抱え、日本一の清流・高津川と益田川が豊かな山あいを流れ出て沖積平野を形づくり、海岸線には美しい松林の砂州が伸びる、海陸要衝の地です。これらの自然は、美しい景観のみならず、魅力的な歴史も生み出しました。

今から800から400年前、地方に領主が勢力を誇り、海に国境のない時代—中世の益田は、その地理や地域の資源を最大限に活かして、一際大きな輝きを放っていました。

【日本海に漕ぎ出した益田の人々】中世の益田平野では、高津川が益田川に合流しており、砂州の発達とあわせて、河口域が潟湖のようになっていました。この地形は日本海の荒波や強風を避ける格好の条件でした。このため、中世の高津川・益田川河口域は港町として賑わいました。

砂州の南側から発見された中須東原遺跡は、そのような港町の遺跡の代表例です。旧河道に沿って石が敷き詰められた荷揚げ場跡の内側に、鍛冶場をはじめとする町場が建ち並ぶ様子が発掘成果から浮かび上がりました。また、出土した陶磁器は、国内はもとより、西は朝鮮半島や中国、南は東南アジアとの交易を物語っています。

何を輸出していたのかも、河川が教えてくれます。高津川やその支流匹見川の上流の豊かな中国山地、たとえば匹見は良質な材木を豊富に産出します。材木は川下しされ、さらに他地域へと積み出されました。また、益田川上流の都茂鉦山の鉦物も同様に交易品であったと考えられます。

中世の益田は人とモノの交流の最前線であり、人々はその豊富な地域資源と中国や朝鮮半島に近い立地条件を活かして日本海に漕ぎ出し、積極的に国内外との取引に取り組んでいたのです。

【領主・益田氏の実力】益田川をさかのぼり、平野部から山間部へと入る手前に、歴史ある町並みが残っています。この町並みを築いたのは、中世の益田を治めた領主益田氏です。

益田氏は優れた政治手腕を発揮して、益田の平和を維持しました。たとえば、戦国大名毛利氏と関係が悪化した後、和睦する際には、朝鮮半島の虎皮をはじめとする莫大な贈り物をし、蝦夷地（北海道）の昆布や数の子、地元の特産品である清流・高津川の鮎やうるかななどを材料にした豪華な料理を振る舞いました。自身の日本海交易への積極性と経済力を印象づける狙いがあったと考えられています。実際、以後、毛利氏から一目置かれており、非常に鮮やかな手法と言えます。

その威勢は、山城・館の遺跡や城下に見ることができます。東西に5mの土塁を持つ館・三宅御土居の遺跡、一つの山をまるまる要塞化した山城・七尾城の遺跡は、同規模の領主と比べてはるかに大きく、また後述する特徴的な形をしています。



益田平野。手前の日本海に、高津川（右）、益田川（左）が注ぐ。益田川河口の砂州の内側に中世の港町の遺跡（中須東原遺跡）がある。



中須東原遺跡の荷揚げ場跡



匹見の森林。材木は川下しされ、河口部の港から国内外へと積み出されたと考えられている。



三宅御土居跡。東西約190m、南北110mに及び、東西には高さ5mの土塁が設けられている。

【花開いた独特の文化】繁栄と平和のもと、もともとの地域の文化に、京都や山口、東アジアの影響も受け、益田には優れた文化が花開きました。

益田氏は、寺社を手厚く保護し、創建した時宗・萬福寺の本堂や、再建した地域の氏神・染羽天石勝神社の本殿は、当時の寺院・神社建築を代表するような美しい形をしています。

平安時代から中世を通じて、時代ごとに個性的な仏像が現存しています。それらは中央の流行を取り入れつつも、地方色も色濃く残しています。

室町時代には、中国に渡って水墨画を極めた雪舟が益田に招かれました。

雪舟は萬福寺と崇観寺（後身寺院が医光寺）に庭園を築き、益田兼堯像を描きました。これらはいずれも雪舟の代表作とされ、二つの庭園は四季折々に異なる美しさを見せます。

交易で入手した茶壺等が彩りを添えます。萬福寺に伝わる華南三彩壺は、東南アジアとの貿易で入手したと考えられています。

【中世を味わえるまち益田】益田氏は江戸時代（近世）初めに残念ながら益田を去らざるを得なくなり、益田は江戸時代に城下町になりませんでした。しかし、これにより近世の城下町として再開発されず、中世の町並みがそのまま残りました。

現在の益田の町並みは、日本の他の歴史ある町並みとは少し様子が異なっています。たとえば、長靴を横に倒したような形と言われる館跡や、Y字形の山の尾根に築かれた山城跡。直線と曲線が入り交じった街路など。二回しか曲がっていないのにもとの場所に戻ることも。それは、中世に、地形や、古代以来の神社や道路などを大きく改変することなく築かれた町並みが、現代に至っているからです。益田は、全国で最も中世の遺産や町並みが伝わるまちと評価されています。

時代と地域の特性を活かして輝いた益田の歴史は、中世日本の傑作と言え、その多種多様で優れた一級の遺産をまとめて伝える益田は、中世日本を味わえるまちです。



萬福寺本堂



染羽天石勝神社本殿



木造釈迦如来坐像(医光寺)



医光寺庭園



華南三彩壺（萬福寺）



美濃郡上本郷村道水路図。明治10年頃。右下の青い部分が七尾城跡。その北と西に中世城下の地割りが残る。黄色の部分は寺院や神社。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の 所在地
①	くししろかひめじんじや 櫛代賀姫神社 (くししろかひめじんじやほんでん (櫛代賀姫神社本殿))	未指定有形 (建造物) / 国登録有形 (建造物)	式内社。本殿の一部に、1584年に益田藤兼・元祥が再建した際の建築部材が残る。 境内からは眼下の益田川河口と益田平野を一望することができ、港町が成立した地理的な背景ができるどころ。	
②	ふくおうじ 福王寺 (ふくおうじせきどうじゅうさんじゅうとう (福王寺石造十三重塔 /石造物群))	未指定有形 (建造物) / 県有形 (建造物) / 未指定有形 (建造物)	中須東原遺跡に隣接し、交易に関わった寺院と考えられる。 境内には、十三重塔をはじめ、六甲、日引、福光など、中世の主要な交易拠点近辺に産する石材による中世の石塔が数多く残されており、中世の多様な交易の様子を伝える。	
③	なかずひがしはらいせき 中須東原遺跡	国史跡	中世の港町を代表する遺跡で、中世の益田地域と益田氏の経済を支えた交易拠点と考えられる。 往時の集落跡とともに、その成立要因である砂丘が残り、隣接する福王寺を含め、中世の景観を今にとどめる。	
④	ちゅうせいまいちいせき 中世今市遺跡	市史跡	安土桃山時代の港町の遺跡で、江戸時代まで港として存続した。中央の道の両側に短冊状の地割りが残る。幕末の石垣積みが往時の荷揚げの様子を想像させる。	
⑤	たいきあん 大喜庵 (もくぞうかんのんぼさつりゅうぞう (木造観音菩薩立像 / おとよしたいきあんぼちせつしゅう 乙吉大喜庵墓地 雪舟 はか 墓))	未指定有形 (建造物) / 県有形(彫刻) /市史跡	雪舟が滞在し、亡くなったとされる東光寺を江戸時代に再興した寺院。東光寺は益田氏の庇護を得て、名僧が住職を務めた。雪舟墓は、江戸時代に雪舟の墓が荒廃したことを憂いた人々によって再興された墓。	
⑥	しほんちやくしよくますだかねたかぞう 紙本著色益田兼堯像 / やすどみけもんじよすふけもんじよ 安富家文書 / 周布家文書 / ますだふじかねしよじょう さんがつ / 益田藤兼書状 (三月 はつか きつ きつべつ かしあて 二十日 / 杵築別火氏宛) よしだ けもんじよ せつしゅう / 吉田家文書 / 雪舟 ぜんじぞう 禅師像	重要文化財 / 県有形(古文書) / 県有形 (古文書) / 市有形(古文書) / 市有形 (古文書) / 市有形(彫刻)	益田兼堯像は、中世の益田の文化の高さを示す絵画。日本を代表する芸術家・雪舟が描いた、室町時代の益田氏当主の肖像画。益田兼堯は父と兄の死により家を継ぎ、益田氏存続のため奮闘し、晩年は雪舟を招き親しく交わった。 これを所蔵する益田市立雪舟の郷記念館では、雪舟の偉業と足跡を学ぶことができる。	

⑦	ますだしりつれきしみんぞくしりょうかん 益田市立歴史民俗資料館 (旧美濃郡役所)	国登録有形 (建造物)	中世の史跡や寺院が集中する地区に立地する。大正時代的美濃郡役所として建設された建物。1983年に益田市立歴史民俗資料館となり、三宅御土居跡や七尾城跡のガイドンス機能をもつ。	
⑧	ななおじょうあと 七尾城跡／ すみよしじんじや 住吉神社	国史跡 ／未指定有形 (建造物)	領主益田氏の城跡。全長600mに及ぶY字状の尾根全体が要塞化された堅固かつ大規模な山城跡。 住吉神社は、中世に妙義寺境内に勧請され、江戸時代に現在の七尾山中腹に移された。 本丸跡からは、城下を見渡すことができる。	
⑨	みょうぎじ 妙義寺 ななおじょうつけたりみょうぎけいだい (七尾城 附 妙義寺境内) もくぞうじゅういちめんくわんおんぼくさつ ／木造十一面観音菩薩 りゅうぞう みょうぎじくうらだに 立像／妙義寺桜谷 ごりんとう でんますだ ふじかほはか 五輪塔(伝益田藤兼墓)／ みょうぎじくうらだにごりんとう でん 妙義寺桜谷五輪塔(伝 ますだかねいへはか みょうぎじ 益田兼家墓)／妙義寺 もんじよ みょうぎじいしげし 文書／妙義寺石橋)	未指定有形 (建造物)／ 県史跡／県有 形(彫刻)／ 市有形(建造 物)／未指定 有形(建造物) ／未指定有形 (古文書)／未 指定有形(建 造物)	1581年に益田氏によって再興され、この地域の曹洞宗の中核寺院に位置づけられた。 仏像や古文書からも歴史を体験でき、本堂では座禅体験や演奏会なども行われる。境内には、益田氏当主の墓と伝わる大型の五輪塔がある。 妙義寺参詣道は益田のまちの基軸線の一つをなす。	
⑩	きょうおんじ 暁音寺 もくぞうあみだにょらいりゅうぞう (木造阿弥陀如来立像) きょうおんじさんもんおよしろうろう ／暁音寺山門及び鐘楼 きょうおんじまえ かざまがりあと ／暁音寺前の鍵曲跡)	未指定有形 (建造物)／ 県有形(彫 刻)／市有形 (建造物)／未 指定史跡	暁音寺は中世の創建で、江戸時代最初期に益田氏家老の屋敷があった現在地に移った。 暁音寺の東側は、かつて道が鍵曲り(クランク)状になっていた。現在は、路面標示により、その姿の名残をとどめている。 七尾山を背景に、山門と鐘楼のたたずまいは、城下町のランドマークの一つ。この鍵曲りを中心に中世の城下らしい街路を体験できる。	
⑪	なかはらけじゅうたく 中原家住宅	未指定 有形(建造物)	かつて銘酒「白菊」を生産していた蔵元。城下の建物として、もっともその空気感をのこす。現在は廃業しているものの、店舗と酒蔵が残されており、酒蔵では季節に落語会などが催されている。	
⑫	みぎたほんてんさかぐら 右田本店酒蔵	未指定 有形(建造物)	右田本店は、1602年、益田氏が須佐に遷ったことで、益田がさびれることを憂いた右田宗味が始めたという。 銘酒「宗味」や中世の酒を再現した「与三右衛門」を生産している。	
⑬	みやけおどいあと 三宅御土居跡	国史跡	領主益田氏の館跡。東西に高さ5mの土塁が築かれ、周囲に堀を巡らせた、堅固かつ大規模な館跡。東西190mに及ぶ。長靴を横に倒したような形をしている。	

⑭	<p>せんこうじ 泉光寺 (けんぼんちやくしよくしゃかじゅうろく 絹本著色釈迦十六 善神像)</p>	<p>未指定有形 (建造物) / 県有形(絵画)</p>	<p>江戸時代から現代まで、三宅御土居跡の中心にあって、御土居を守ってきた寺院。国史跡指定後に三宅御土居跡西方500mの位置に移転した。 染羽天石勝神社の別当寺勝達寺の遺宝釈迦十六善神像から、その文化水準をうかがうことができる。</p>	
⑮	<p>まんぶくじ 萬福寺 (まんぶくじほんどうつげたりむなふだ 萬福寺本堂 附 棟札7 枚 / 萬福寺庭園 / 絹本 著色二河白道図 / 書院 襖絵 / 木造阿弥陀如来 立像 / 流仏三体像 / 木造阿弥陀如来坐像 / 益田兼見像 / 萬福寺文書 / 華南三彩壺 / 萬福寺 椎山墓地五輪塔(伝益田 兼見墓))</p>	<p>国重要文化財 / 国史跡及び 名勝 / 国重要 文化財 / 県有 形(絵画) / 県 有形(彫刻) / 市有形(彫刻) / 市有形(彫 刻) / 未指定 有形(絵画) / 未指定有形 (古文書) / 未 指定有形(美 術品) / 市指 定有形(建造 物)</p>	<p>1374年に創建された益田氏の菩提寺の一つ。時宗寺院。美しい本堂は、当時の建築様式をそのまま伝える。 庭園は雪舟の作庭と言われ、医光寺庭園とあわせて、室町の独特の庭園を四季折々楽しむことができる。 このほか、優れた仏像・仏画の数々、益田氏当主の画像、東南アジア貿易への関与を示す華南三彩壺などもあわせて、益田の中世文化の粋が味わえる。</p>	
⑯	<p>そめはあめのいわかつじんじゃ 染羽天石勝神社 (そめはあめのいわかつじんじゃほんでん 染羽天石勝神社本殿 / 染羽天石勝神社 神楽殿 / 勝達寺跡)</p>	<p>国重要文化財 / 指定有形 (建造物) / 未指定史跡</p>	<p>式内社。益田氏も「当所根本大社」＝地域の氏神として大切にしている。本殿は1583年に益田氏が再建したもので、安土桃山時代の神社建築の美しい姿を見ることができる。</p>	
⑰	<p>いこうじ 医光寺 (いこうじていなん いこうじ 医光寺庭園 / 医光寺 総門 / 医光寺中門 / 木造釈迦如来坐像 / 木造 薬師如来坐像 / 木造薬師 如来坐像 / 木造弘法大師 坐像 / 木造伝龍門土源 坐像 / 益田宗兼像 / 山水図 / 崇観寺跡)</p>	<p>未指定有形 (建造物) / 国史跡及び名 勝 / 県有形 (建造物) / 国 登録有形(建 造物) / 市有 形(彫刻) / 市有形(彫刻) / 市有形(彫 刻) / 市有形 (彫刻) / 市 有形(彫刻) / 未指定有形 (絵画) / 未指 定有形(絵画) / 未指定史跡</p>	<p>臨濟宗医光寺の西隣にかつてあった臨濟宗崇観寺は室町幕府の諸山に列せられた重要な寺院。益田氏も諸山にするために運動し、特に「賞翫」＝大切にすべき寺院と位置づけている。崇観寺が衰退したあと、医光寺がこれに替わって重視された。 庭園は雪舟の作庭と伝わり、萬福寺庭園とは趣を異にするが、四季折々の美しい姿を楽しむことができる。 開山堂の仏像群は、南北朝・室町の優品ばかりである。</p>	
⑱	<p>けんぼんちやくしよくますだもとよしぞう 絹本著色益田元祥像</p>	<p>国重要文化財</p>	<p>益田にいた最後の益田氏当主元祥の肖像画。狩野松栄の筆で、虎皮が描かれるなど、見どころの多い絵画である。</p>	

⑱	つ も こうざんあと 都茂鉦山跡	未指定史跡	益田川の上流に位置する鉦山跡。881年から1987年まで稼働した鉦山で、江戸時代には石見銀山とともに幕府の直轄地となった。 主に銅を産出したが、中世末期には銀も産出し、その鉦物資源は中世の重要な交易資源であったと考えられる。
⑳	おおとしのもといせき 大年ノ元遺跡	未指定史跡	都茂鉦山跡の下流に位置する室町時代の銅精錬の工房跡。中世に都茂鉦山が稼働していたことを示す。
㉑	しんぼうざんはちまんぐう 神宝山八幡宮 (草野家文書)	未指定有形 (建造物) / 未指定有形 (古文書)	益田氏が鎌倉時代後期に本拠を置いていた東仙道に鎮座する神社。益田氏の氏神である御神本大明神も合祀されている。高台に位置し、東仙道の地勢がよくわかる。
㉒	ひきみ さんりん 匹見の山林	未指定 天然記念物	益田市匹見町は中国山地に抱かれた落葉広葉樹林帯が広がり、江戸時代には林業と木地師によって栄えた。 中世には、川下しされた材木が国内外へと輸出され、益田の主要な交易品となっていた。
㉓	たかつがわ ひきみがわ 高津川と匹見川	未指定 天然記念物	益田はもとより、石見西部の大動脈であった河川。 河口の港と上流域を結び、交易品が行き交う河川交通を担った。 全国唯一のダムがない一級河川で、水質日本一に何度も輝き、鮎や鰻、ツガニなどの恵みを今ももたらしている。いかだ流し大会なども行われる。
㉔	ますだがわ 益田川	未指定 天然記念物	中世の益田の港町と益田氏の城下をつなぐ。
㉕	くわぼらしめぞう 桑原酒造	未指定有形 (建造物)	高津川の旧河道沿いの蔵元。高津川の伏流水をもとに、銘酒「扶桑鶴」や「高津川」を生産する。
㉖	あゆ 鮎とうるか	未指定 天然記念物	1568年に益田氏が戦国大名毛利元就に振る舞った料理の献立にその名が見え、高津川・匹見川の鮎やうるかと推測される。今でもこの地の特産品である。

構成文化財の写真一覧



① 榎代賀姫神社本殿



① 榎代賀姫神社からの眺望



②福王寺の石造物群



③中須東原遺跡



③中須東原遺跡の整備イメージ



④中世今市遺跡



⑥紙本著色益田兼堯像



⑤大喜庵



⑦益田市立歴史民俗資料館 (旧美濃郡役所)



⑧七尾城跡



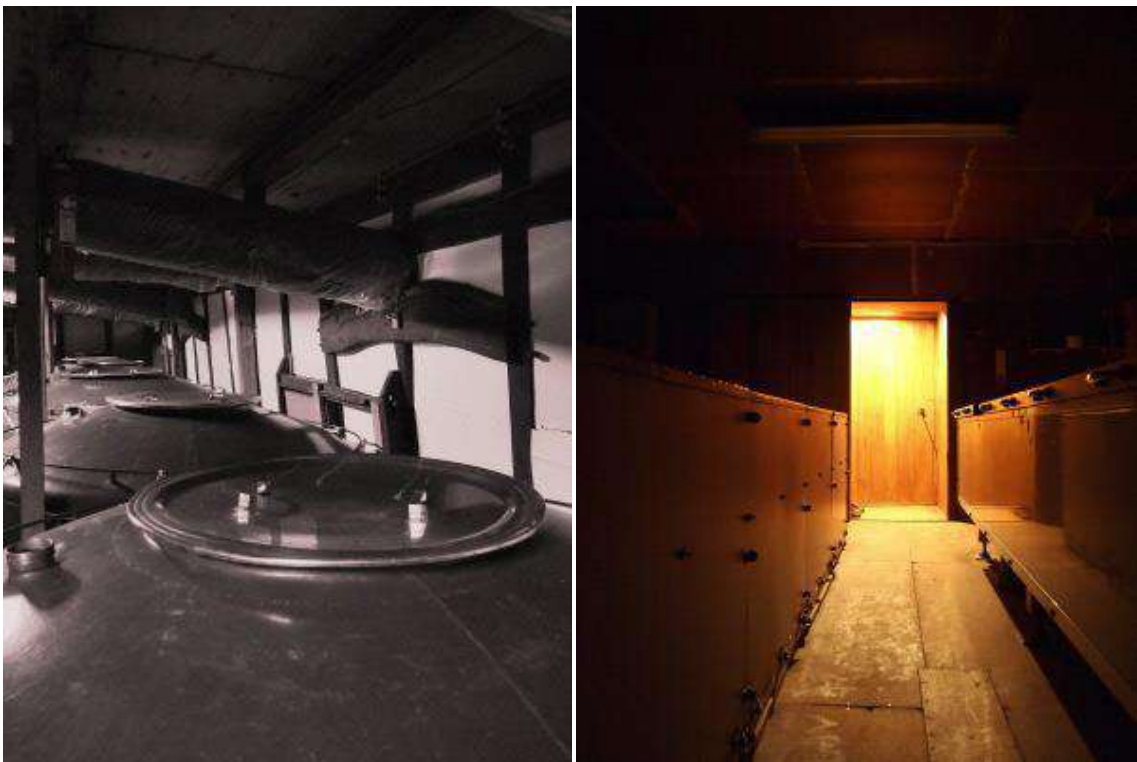
⑨妙義寺



⑩暁音寺山門及び鐘楼。鍵曲り跡。



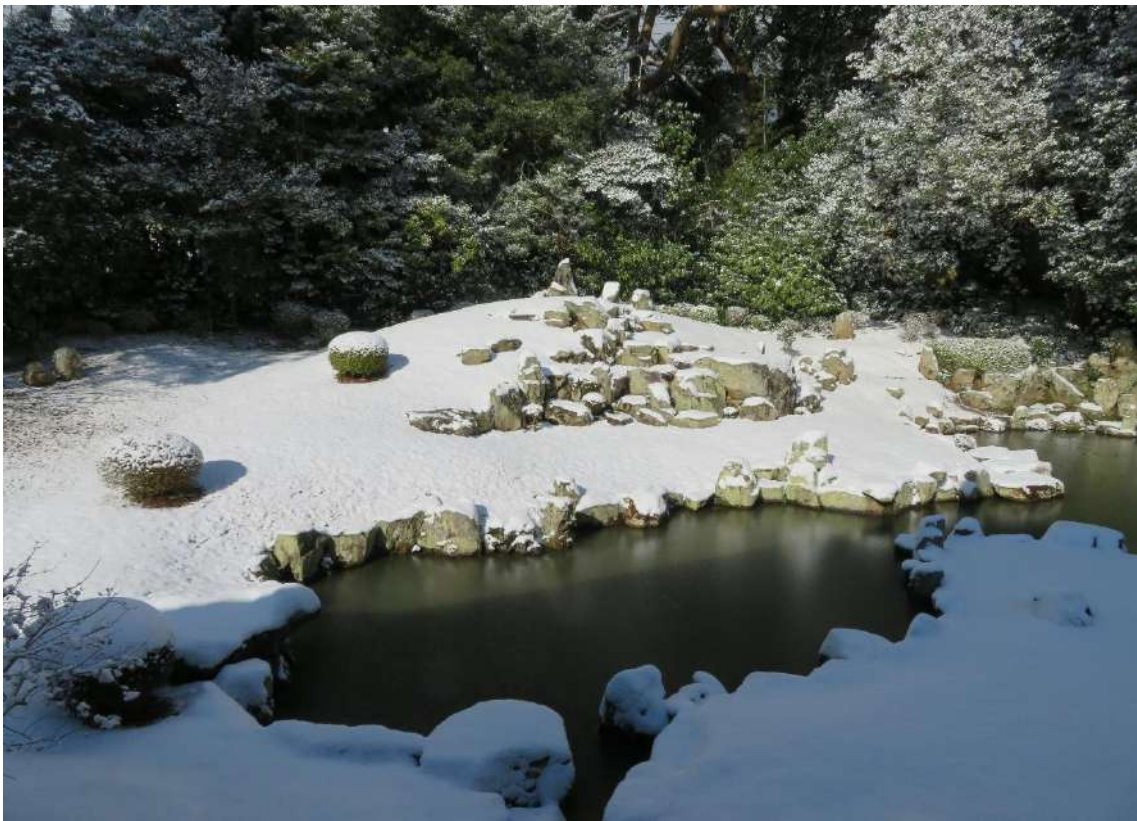
⑪ 中原家住宅



⑫ 右田本店酒蔵



⑮ 萬福寺本堂



⑮ 萬福寺庭園



⑯染羽天石勝神社本殿



⑰医光寺総門



⑰医光寺庭園



⑱ 島根県芸術文化センター「グラントワ」



⑱ 絹本著色益田元祥像



⑱都茂鉦山跡



⑳大年ノ元遺跡



①神宝山八幡宮



②匹見の山林

③匹見川



③高津川



②④益田川



②⑤桑原酒造



②6 魚占

日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

【基本理念】：中世益田の輝きにならい、地域の特性を最大限活かして、独自の輝きを放ち続けるまち

【日本遺産の位置づけ】：日本遺産認定により、益田市の歴史文化のブランド化をはかり、また、その地域活性化計画の推進により、現状の課題を解決し、官民連携による継続的に自走できる事業の実施体制を整備する。

【基本方針】

中世の益田から学ぶ5つの方針

1. 地域の資源を幅広く深く知る
2. 地域の資源を徹底的に磨き上げる
3. 地域の資源を積極的に売り出す
4. 地域の資源を確実に継承できる仕組みをつくる
5. 地理を活かして国内外と積極的に交流する

『益田市歴史文化基本構想』（平成31年策定）及び『益田市文化財保存活用地域計画』（令和元年策定、同年文化庁認定）等に沿って、「中世日本の傑作益田を味わう」ことのできるまちづくりを推進し、益田に流入する新しいひとの流れ及び定住の基盤となるしごとづくりに繋げる。



<益田地区の整備イメージ>

(2) 地域活性化のための取組の概要

- 地域活性化の取組については、上記基本方針の事項を総合的に勘案し、次に列記するコンセプトにより取組を進めていく。

コンセプト1：「中世を五感で味わえるまち益田」

- 目的等：益田氏と戦国大名毛利氏と一時的に関係が悪化した際、朝鮮半島の虎皮をはじめとする莫大な贈り物や、蝦夷地の昆布や数の子、清流高津川の鮎やうるかななどを材料にした豪華な料理を振る舞って自身の力を見せつけたうで仲直りしたという史実を基に再現した益田「中世の食」の提供など、中世という抽象的なイメージを構成文化財や地域の文化、食材、景観など、あらゆる資源を活用した体験コンテンツを通じて中世益田ブランドを確立していく。
- 連携：文化協会、中世の食再現プロジェクト、おもてなし女子、商工会議所、観光協会、地域住民等
- 具体的な取組
 - ・ 中世の益田「五感で味わう」をテーマにした体験コンテンツの開発
 - ・ 益田家文書を根拠とした益田「中世の食」の充実
 - ・ 城館等の景観整備
 - ・ 物見台の整備
 (別紙②-事業①～⑧)

コンセプト2：「外国人が道に迷わないスマートなまち益田」

- 目的等：中世の益田では、日本海を通じて幅広い地域と積極的に交流・交易を行ってきたことから、首都圏と益田市を繋ぐ萩・石見空港を有効に活用し、国内外の交流が活性化できるように環境整備に取り組む。具体的には、インバウンド対策が遅れている状況であることから、道路サインの整備を行うとともに、観光案内等のスマートフォンアプリの導入や関係事業者のキャッシュレス化などの対策と合わせたデジタル化の環境整備に取り組む。また、市内周遊化を促進するため、交通事業者と連携して地域内交通システムの検討及び構築に取り組む。さらに、人との交流を重視し、通訳案内士との連携強化に取り組む。
- 連携：道路管理者、商工会議所、集客施設、宿泊施設、交通機関、通訳案内士、教育委員会、地域住民等

○具体的な取組

- ・文化財保存活用テーマ別のサイン整備計画の策定及びサイン整備の実施（多言語対応）
- ・構成文化財等案内板の整備（多言語化）
- ・観光デジタルコンテンツの作成（多言語対応）
- ・Wi-Fiスポットの整備
- ・キャッシュレス化の推進
- ・通訳案内士の活動の支援と連携の充実
- ・地域内交通システムの検討及び構築
(別紙②-事業⑨～⑬)

コンセプト3：「選ばれるまち益田」

- 目的等：益田市は全国的に認知度が低いことから、日本遺産を中心とした歴史ブランドに磨きをかけ、観光協会及び市内の集客施設、宿泊施設等と連携したプロモーションに取り組み、誘客効果を高める。
また、益田氏の政治手腕や日本海交易による繁栄、雪舟の招へいなどの取組にならない、中世益田と関係の深い地域と連携し、広域的な視点で情報発信を行う。

- 連携：観光協会、集客施設、宿泊施設、交通機関、ビジターセンター管理者等

○具体的な取組

- ・日本遺産専用ポータルサイト（多言語対応）の開設
- ・日本遺産専用パンフレット（多言語化）の作成
- ・観光商談会等への参加
- ・プロモーション体制の確立
- ・プロモーション映像の作成
- ・益田氏及び雪舟をテーマとした広域的な取組
(別紙②-事業⑭～⑳)

コンセプト4：「また来たくなるまち益田」

- 目的等：旅の印象は人との出会いにより大きく左右されることから、観光客と多くの接点を持つ観光関連事業者の日本遺産に対する知識水準を一定程度保てる研修の機会をつくる。また、ビジターセンターとしての機能を兼ね備えた施設を整備し、来訪者へ構成文化財やストーリーがより深く理解できるように、わかりやすさを追求し、「また来たくなるまち」の環境を整える。

- 連携：観光協会、集客施設、宿泊施設、交通機関、教育委員会等

○具体的な取組

- ・市内入込施設、公共交通、宿泊等の従業員向け歴史講座研修の実施（日本遺産検定等の開発及び活用等）
- ・構成文化財が集中する益田地区の中心に位置する既存施設（益田市立歴史民俗資料館等を想定）に、ビジターセンターとしての機能を備えた施設を整備するとともに、対話を重視した接遇により、「また来たくなる」ような運営に取り組む。
(別紙②-事業㉕～㉖)

コンセプト5：「ひとが育つまち益田」

- 目的等：「中世日本の傑作 益田を味わう」ことのできるまちづくりのためには、担い手の育成が重要となる。益田市は「益田市ひとつづくり協働構想」を策定し、①未来の担い手づくり、②産業の担い手づくり、③地域の担い手づくりの3つの切り口でひとつづくり政策に取り組んでいる。歴史文化を活用した人材育成は幅広い知識と経験が必要であることから、日本遺産を活用した人材育成システムの構築に取り組む。

- 連携：観光協会、教育委員会、中世の食再現プロジェクト、おもてなし女子、地域住民等

○具体的な取組

- ・日本遺産講座の開設
- ・益田「中世の食」に携わるおもてなし人の育成
- ・歴史的景観に配慮した街並み形成の啓発及び街並み形成
(別紙②-事業㉗～㉘)

コンセプト6：「応援したいまち益田」

- 目的等：中世益田氏が雪舟を招へいたり、交易等により地域外との交流が盛んであったように、外部との繋がりを大切にし、中世益田を発展させてきたことにならない、益田市との継続した関係づくりができる機会を設け、益田ファンの拡大を図る。

- 連携：東京・近畿・広島益田会（出身者会）、高津川MATSUYOプロジェクト（高津川流域の課題解決に取り組む首都圏コミュニティ）、姉妹都市等

○具体的な取組

- ・市外の益田市出身者及び姉妹都市等との継続的な交流
- ・外部人材が、まちづくり等へ関わり続けてもらえる仕組みづくり（関係人口、ファンづくり）
- ・日本遺産を活かしたまちづくりなどへのふるさと納税等の活用
(別紙②-事業㉙～㉚)

(3) 自立的・継続的な取組

- ①日本遺産ストーリーの浸透について
 - ・日本遺産を通じた新しい人の流れにより、来訪者からの口コミやSNS等での拡散に繋がるような取組を官民が連携し、継続して取り組む。
 - ・観光事業者向けの日本遺産研修会は、本実行委員会や観光協会等が継続的に実施し、日本遺産に関する知識について一定の水準を保つ。
 - ・市民向けの日本遺産検定やシンポジウムについても、本実行委員会が中心となり、教育委員会等がサポートしながら継続して開催する。
- ②インバウンド整備・観光地の面展開について
 - ・ポータルサイトやパンフレットについては、基本的には受入環境を整備した後、2年目以降で順次整備を行う。補助期間終了後のポータルサイトの管理は、ビジターセンター管理者が行う。
 - ・道路サイン等については、出来るだけ1年目に実施する。
 - ・キャッシュレス化については、関係機関と連携して普及に努める。
 - ・歴史的景観に配慮した街並み形成については、観光地としての地域住民の意識醸成が必要なことから、まちづくり部局及びますだ地域づくり協議会などと連携して継続的に取り組む。
 - ・東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技のキャンプ地として、アイルランドを相手国とするホストタウンとなっていることから、開催期間中はもとより、オリンピック・パラリンピック終了後も自転車を活用したインバウンドに繋げていく。
- ③地域の担い手の育成について
 - ・観光協会が先行して取り組んでいる観光コンテンツづくりのノウハウを、本実行委員会の構成団体等が日本遺産を活用した観光コンテンツづくりに取り組むことにより、観光協会の着地型旅行商品として販売可能となっている。ここでの収益も活用しながら担い手育成にも継続して取り組む。
 - ・益田「中世の食」に携わる担い手の育成を、令和元年度から地元の高校生を対象に取組を始めたところであり、当面は継続して取り組むことで、担い手確保に繋げていく。
 - ・益田地区では、益田市対流促進拠点（コワーキング等複合施設）が今後整備予定となっている。首都圏大学のサテライトキャンパスの機能もあることから、大学生等と連携した取組を通じて担い手の確保にも繋げていく。
- ④民間事業者の巻き込みについて
 - ・「また来たくなるまち益田」の実現には、観光客と接する観光関連事業者の対応によって大きく左右されることから、日本遺産知識と接客スキルの向上を官民連携で行う。
 - ・観光コンテンツづくりや日本遺産プロモーション、商談会等については、事業終了後も官民連携で取り組んでいく。
 - ・日本遺産を通じて訪れた観光客の市内周遊化を促進するため、交通事業者と連携して効果的な地域内交通システムを構築する。
- ⑤空港利用促進について
 - ・現在東京線の1便については、国土交通省の政策コンテスト枠での運航となっている。また、大阪線については夏季季節運航（18日間）となっている
 - ・日本遺産効果により空港利用者の増加が見込まれることから、東京線の2便化の継続及び大阪線の運航期間の拡大が期待できる

(4) 実施体制		
<p>①補助事業者：益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会 ・令和元年7月に、益田市の豊かな歴史文化を活かした地域振興の取組、特にこれらを活かした観光拠点づくりに資する事業を行うことを目的に設立</p> <p>②構成団体：益田「中世の食」再現プロジェクト、益田商工会議所、一般社団法人益田市観光協会、ますだ地域づくり協議会、益田市文化協会、益田市雪舟顕彰会、都茂地区直進会、交通事業者、島根県立石見美術館、公益財団法人しまね文化振興財団 いわみ芸術劇場、益田市教育委員会、益田市</p> <p>③推進体制 ア. 地域活性化のための取組を総括して推進するプロジェクトリーダーとして、益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会長が務める。 イ. 民間事業者等が参画した分野別ワーキンググループ（WG）とグループリーダー（GL） ○プロモーション（益田ファンづくり含む）WG・・・GL観光協会 ○インバウンド対策WG・・・・・・・・・・・・・・・・GL商工会議所 ○中世を五感で味わうWG・・・・・・・・・・・・・・・・GL中世の食再現プロジェクト ○ひとづくり（スキルアップ含む）WG・・・・・・・・GL教育委員会 ウ. 日本遺産庁内ワーキンググループ及びグループリーダーの連絡会議 ○庁内ワーキンググループ ・現行の枠組みである政策企画課、農林水産課、観光交流課、都市整備課、社会教育課、文化財課（事務局）のほかまちづくりや交通対策など事業推進に関連する部局が柔軟に参画できるスタイルで運営する ○グループリーダー連絡会議 ・日本遺産事業の官民連携及び調整機能として定期的（5月、8月、11月、2月など）に開催する エ. 定期的な連絡会議の場等を通して形成されるボトムアップや地域連携の仕組み ○推進役 ・益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会において、プロジェクトリーダーが必要な調整を行う。 ○行政 ・政策調整会議（庁議）等において、庁内の意思決定や必要な調整を行う ・平成31年3月に策定した「益田市文化財保存活用地域計画」の推進体制とも必要な調整を図る。 ○DMO ・今後地域DMO候補法人として登録予定の地域DMOの参画を促し、役割分担しながら最適化を図る。</p>		
(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果	定量的評価：	別紙①のとおり
期待される効果：	<ul style="list-style-type: none"> ・益田市の根本的な課題の一つとして、認知度が低いことから日本遺産を通じた認知度の向上が期待できる。このことにより、セールスしやすい状況が生まれることが期待される。 ・観光関連事業者の日本遺産に関する知識の向上や、接客スキルの向上により顧客満足度も向上し、リピーター増加に繋がることが期待できる。 ・日本遺産ビジターセンターの開設や街並み形成等の取組により、地域住民が歴史や文化を再認識し、地域に誇りを持つことが期待される。 ・地域の歴史資源等が生かされることにより、集客施設や宿泊施設等の利用者が増加し、地域経済の活性化が期待される。 ・体験コンテンツが充実することにより、交流人口の増加が期待でき、空港利用促進にも貢献できる。 ・本取組を通じて、市民と行政との協働・連携体制が構築され、より効果的なまちづくりに繋がる。 ・出身者や交流者等との関係づくりを強化することにより、ふるさと納税等の自主財源確保に繋げることが期待できる。 	
<p>(6) 日本遺産魅力発信推進事業 別紙②のとおり</p> <p style="text-align: center;">事業費： 令和2年度： 67,840千円 令和3年度： 50,482千円 令和4年度： 18,894千円</p>		
<p>(7) その他事業 別紙③のとおり</p>		

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ:	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標:	観光客入込み数
具体的な指標:	益田市の観光客入込み数
関連事業:	(6) ①②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖ (7) ①③⑦⑭⑮⑯⑰⑱⑲
目標値:	平成 30 年 919,892 人 ⇒ 令和 8 年度 1,500,000 人
設定根拠:	観光動態調査の直近の確定値が平成30年。令和2年までは直近の伸び率を適用し、それ以降は関連事業実施により対前年比10%の数値を加算し計上した。
設定目標Ⅰ:	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標:	外国人宿泊者数
具体的な指標:	益田市の外国人宿泊者数
関連事業:	(6) ①②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘ (7) ①②③⑦⑭⑮⑯⑰⑱⑲
目標値:	平成 30 年 397 人 ⇒ 令和 8 年度 2,800 人
設定根拠:	観光動態調査の直近の確定値が平成30年。令和2年までは直近の伸び率を適用し、それ以降は関連事業実施により対前年比10%の数値を加算し計上した。
設定目標Ⅱ:	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標:	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標:	第5次益田市総合振興計画後期基本計画第2章4①豊かな歴史・文化資源を保存・継承・活用したまちづくりの推進における施策満足度
関連事業:	(6) ②③④⑤⑥⑦⑧⑪⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟ (7) ④⑤⑧⑨⑩⑪⑬⑭
目標値:	平成 28 年度 30 % ⇒ 令和 8 年度 50 %
設定根拠:	平成28年度の第5次総合振興計画後期基本計画策定時に調査を実施。令和7年度に第6次総合振興計画後期基本計画の調査時期になるため、関連事業実施により50%以上を設定。
設定目標Ⅲ:	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標:	日本遺産のためのふるさと納税額
具体的な指標:	歴史的・文化的資源の保全及び活用に関する事業に対する納税額
関連事業:	(6) ⑭⑮⑳㉑㉒ (7) ⑥
目標値:	平成 30 年度 28,447,000 円 ⇒ 令和 8 年度 33,967,000 円
設定根拠:	ふるさと納税額「歴史的・文化的資源の保全及び活用に関する事業」実績の直近は平成30年度。関連事業実施により対前年比3%の数値を加算し計上した。
設定目標Ⅳ:	その他
計画評価指標:	その他
具体的な指標:	
関連事業:	
目標値:	令和 年度 ⇒ 令和 年度
設定根拠:	

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

(6) 地域文化財総合活用推進事業 (日本遺産)

事業①： 中世の益田「五感で味わう」体験コンテンツ開発事業			
事業区分：	人材育成事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 520千円	令和3年度： 520千円	令和4年度： 520千円
事業概要：	中世の益田「五感で味わう」をテーマにした体験コンテンツの開発		
具体的な指標：	開発コンテンツ数		
目標値：	令和 2 年度	4 件	⇒ 令和 8 年度 30 件
事業②： 益田「中世の食」普及事業			
事業区分：	普及啓発事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 280千円	令和3年度： 280千円	令和4年度： 280千円
事業概要：	益田「中世の食」を提供する飲食店を増やし、日本遺産ブランドを確立する		
具体的な指標：	参画飲食店数		
目標値：	令和 2 年度	1 店	⇒ 令和 8 年度 7 店
事業③： 七尾城跡の眺望整備のための環境整備事業			
事業区分：	活用整備事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 2 年度
事業費：	令和2年度： 5,000千円	令和3年度： 0千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	山城等の眺望を確保するための樹木の剪定、伐採を行う。		
具体的な指標：	益田市の観光客入込み数		
目標値：	平成 30 年	919,892 人	⇒ 令和 8 年 1,500,000 人
事業④： 都茂鉦山跡の環境整備事業			
事業区分：	活用整備事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 2 年度
事業費：	令和2年度： 600千円	令和3年度： 0千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	都茂鉦山跡を安全にわかりやすく見学できるようにするため、樹木伐採や歩道の整備などの環境整備を行う。都茂鉦山跡の活用に努める団体・都茂地区直進会が実施する。業者による伐採300,000円、都茂地区直進会による歩道等整備300,000円		
具体的な指標：	都茂鉦山跡ツアーの参加者		
目標値：	平成 30 年度	100 人	⇒ 令和 8 年度 800 人
事業⑤： 櫛代賀姫神社の展望台設置事業			
事業区分：	活用整備事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 2 年度
事業費：	令和2年度： 4,500千円	令和3年度： 0千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	益田平野を一望できる櫛代賀姫神社の眺望をより活かすため、展望台を設置する。		
具体的な指標：	益田市の観光客入込み数		
目標値：	平成 30 年	919,892 人	⇒ 令和 8 年 1,500,000 人

(6) 地域文化財総合活用推進事業 (日本遺産)

事業⑥：雪舟庭園でのお茶席開催事業			
事業区分：	活用整備事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 4,000千円	令和3年度： 1,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要：	雪舟庭園のある萬福寺、医光寺で、週末にお茶席を設けることで、中世文化を目・鼻・舌で感じられる機会を提供する。両寺院にお茶席に必要な機材を整備し、益田市内の表千家、裏千家、上田宗箇流が実施する。		
具体的な指標：	萬福寺、医光寺の拝観者数。		
目標値：	平成 30 年度 8,657 人 ⇒ 令和 8 年度 16,000 人		
事業⑦：雪舟庭園での和楽器公演事業			
事業区分：	活用整備事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 2 年度
事業費：	令和2年度： 1,000千円	令和3年度： 0千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	雪舟庭園のある萬福寺、医光寺で、週末に和楽器の公演を実施することで、中世文化を目と耳で感じられる機会を提供する。両寺院に公演に必要な機材を整備し、益田市内の琴等の団体が実施する。		
具体的な指標：	萬福寺、医光寺の拝観者数。		
目標値：	平成 30 年度 8,657 人 ⇒ 令和 8 年度 16,000 人		
事業⑧：雪舟庭園ライトアップ事業			
事業区分：	活用整備事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 3,000千円	令和3年度： 1,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要：	春期から秋期までの週末等に、萬福寺・医光寺の雪舟庭園をライトアップし、夜景を楽しむ機会を作る。プロジェクションマッピング等も実施する。		
具体的な指標：	萬福寺、医光寺の拝観者数。		
目標値：	平成 30 年度 8,657 人 ⇒ 令和 8 年度 16,000 人		
事業⑨：日本遺産道路サイン整備			
事業区分：	活用整備事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 2 年度
事業費：	令和2年度： 12,000千円	令和3年度： 0千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	日本遺産用の道路サイン（多言語）整備		
具体的な指標：	益田市の観光客入込み数		
目標値：	平成 30 年 919,892 人 ⇒ 令和 8 年 1,500,000 人		
事業⑩：構成文化財等案内板整備			
事業区分：	活用整備事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 5,000千円	令和3年度： 500千円	令和4年度： 500千円
事業概要：	日本遺産専用構成文化財の案内板（多言語）整備		
具体的な指標：	益田市の観光客入込み数		
目標値：	平成 30 年 919,892 人 ⇒ 令和 8 年 1,500,000 人		

(6) 地域文化財総合活用推進事業 (日本遺産)

事業⑪：観光デジタルコンテンツ作成事業			
事業区分：	情報コンテンツ作成事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 1,000千円	令和3年度： 500千円	令和4年度： 500千円
事業概要：	まちあるきアプリ作成		
具体的な指標：	アプリダウンロード数(累計)		
目標値：	令和 2 年度 0 件 ⇒ 令和 8 年度 150,000 人		
事業⑫：Wi-Fiスポット整備事業			
事業区分：	情報コンテンツ作成事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 10,000千円	令和3年度： 120千円	令和4年度： 120千円
事業概要：	Wi-Fiスポットの整備		
具体的な指標：	Wi-Fiスポット利用者数		
目標値：	令和 2 年度 0 人 ⇒ 令和 8 年度 500,000 人		
事業⑬：まちあるきマップ作成事業			
事業区分：	情報コンテンツ作成事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 3,000千円	令和3年度： 1,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要：	日本遺産の構成要素を、楽しみながら歩いてもらえるよう、まちあるきマップを作成する。初年度に3～4種類ほどを作成し、2年目以降は追加で1種類ずつ作成し、また増刷する。		
具体的な指標：	益田市の観光客入込み数		
目標値：	平成 30 年 919,892 人 ⇒ 令和 8 年 1,500,000 人		
事業⑭：日本遺産専用ポータルサイトの開設・運用			
事業区分：	情報コンテンツ作成事業	事業期間：	令和 3 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 3,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要：	日本遺産専用のホームページ(多言語化)を作成と運用		
具体的な指標：	ホームページ閲覧数(ユーザー数/年)		
目標値：	令和 2 年度 0 ユーザー ⇒ 令和 8 年度 2,500,000 ユーザー		
事業⑮：日本遺産専用パンフレットの作成			
事業区分：	情報コンテンツ作成事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 2,000千円	令和3年度： 3,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要：	日本遺産専用のパンフレット詳細版・概要版(多言語化)を作成		
具体的な指標：	パンフレット(概要版)増刷数		
目標値：	令和 2 年度 10,000 部 ⇒ 令和 8 年度 10,000 部		

(6) 地域文化財総合活用推進事業 (日本遺産)

事業⑯：雪舟のまち益田プロモーション映像作成事業			
事業区分：	情報コンテンツ作成事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 3 年度
事業費：	令和2年度： 1,000千円	令和3年度： 1,000千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	萬福寺と医光寺の雪舟庭園や益田兼堯像、大喜庵など、雪舟ゆかりのまち益田をPRする映像を作成する。四季折々の美しい映像を盛り込むことで、何度でも拝観したくなるよう促す。また積雪時などめったに見られない映像も入れる。民間団体雪舟顕彰会が作成する。		
具体的な指標：	萬福寺・医光寺の拝観者数		
目標値：	平成 30 年度	8,657 人	⇒ 令和 8 年度 16,000 人
事業⑰：日本遺産認定記念企画展開催事業			
事業区分：	普及啓発事業	事業期間：	令和 4 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 0千円	令和4年度： 5,000千円
事業概要：	日本遺産認定を記念し、構成資産を含め、その一級の文化遺産を最新の学術成果をもとに発表する企画展を開催する。		
具体的な指標：	企画展参加者の日本遺産のストーリーに対する理解度		
目標値：	令和 2 年度	0 %	⇒ 令和 4 年度 80 %
事業⑱：雪舟の郷記念館開館30周年・雪舟生誕600年記念事業			
事業区分：	普及啓発事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 2 年度
事業費：	令和2年度： 3,360千円	令和3年度： 0千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	<ul style="list-style-type: none"> 雪舟の郷記念館開館30周年・雪舟生誕600年記念特別企画展 期間：令和2年10月～12月（予定） 上記企画展と連動した観光入込客数の増加及び周遊促進の取り組み 周遊促進企画（JAFデジタルスタンプラリー、庭園間周遊記念品）、開館30周年記念ノベルティの作成、関係団体との協働の実践 		
具体的な指標：	①益田市立雪舟の郷記念館入館者数 ②益田市立雪舟の郷記念館入館者数のうち、特別企画展の入館者数		
目標値：	平成 30 年度	①2,722 人	⇒ 令和 2 年度 ①4,000 人 ②1,000 人
事業⑲：パンフレット類のデジタルコンテンツ化事業			
事業区分：	情報コンテンツ作成事業	事業期間：	令和 3 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 2,000千円	令和4年度： 2,000千円
事業概要：	既存のパンフレット等をデジタルコンテンツ化する。委託料2,000千円。		
具体的な指標：	ホームページ閲覧数（ユーザー数/年）		
目標値：	令和 2 年度	0 ユーザー	⇒ 令和 8 年度 2,500,000 ユーザー
事業⑳：益田氏をテーマとした広域周遊促進事業(周遊促進グッズ作成)			
事業区分：	情報コンテンツ作成事業	事業期間：	令和 3 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 1,294千円	令和4年度： 500千円
事業概要：	益田氏の中世から近世をテーマとした広域周遊「萩・石見空港—浜田市（安国寺・臼口大明神）—益田市（萬福寺・医光寺・益田市立雪舟の郷記念館）—萩市須佐（歴史民俗資料館・益田家墓所・大瀧寺等）—萩・石見空港」を促すため、チラシ、マップ、周遊グッズを作成する。		
具体的な指標：	益田市の観光客入込み数		
目標値：	平成 30 年	919,892 人	⇒ 令和 8 年 1,500,000 人

(6) 地域文化財総合活用推進事業 (日本遺産)

事業⑳: 雪舟をテーマとした広域周遊促進事業①(周遊促進グッズ作成)			
事業区分:	情報コンテンツ作成事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費:	令和2年度: 1,294千円	令和3年度: 500千円	令和4年度: 500千円
事業概要:	雪舟をテーマとした広域周遊「山口宇部空港—防府市(毛利邸)—山口市(常栄寺・常德寺・山口県立美術館・雲谷庵)—益田市(萬福寺・医光寺・益田市立雪舟の郷記念館)—萩・石見空港」を促すため、チラシ、マップ、周遊グッズを作成する。		
具体的な指標:	萬福寺、医光寺の拝観者数。		
目標値:	平成 30 年度 8,657 人 ⇒ 令和 8 年度 16,000 人		
事業㉑: 雪舟をテーマとした広域周遊促進事業②(豪華寝台特急・トワイライト瑞風によるツアー誘致)			
事業区分:	情報コンテンツ作成事業	事業期間:	令和 4 年度 ~ 令和 4 年度
事業費:	令和2年度: 0千円	令和3年度: 0千円	令和4年度: 1,294千円
事業概要:	雪舟をテーマとした広域周遊として、豪華寝台特急・トワイライト瑞風によるツアー「大阪—総社市—防府市—山口市—益田市—大阪」を誘致する。そのために必要なチラシ、マップを作成する。また、これにあわせてお土産物開発などを進める。		
具体的な指標:	萬福寺、医光寺の拝観者数。		
目標値:	平成 30 年度 8,657 人 ⇒ 令和 8 年度 16,000 人		
事業㉒: 大内氏・吉見氏との関係をテーマとした広域周遊促進事業(周遊グッズ作成)			
事業区分:	情報コンテンツ作成事業	事業期間:	令和 3 年度 ~ 令和 4 年度
事業費:	令和2年度: 0千円	令和3年度: 1,294千円	令和4年度: 500千円
事業概要:	大内氏と益田氏との関係をテーマとした広域周遊「萩・石見空港—益田市(萬福寺・医光寺・七尾城跡・三宅御土居跡)—津和野町(吉見氏関連寺社等)—山口市(大内氏関連史跡等)—山口宇部空港」を促すため、チラシ、マップ、周遊グッズを作成する。		
具体的な指標:	益田市の観光客入込み数		
目標値:	平成 30 年 919,892 人 ⇒ 令和 8 年 1,500,000 人		
事業㉓: 戦国大名毛利氏との関係をテーマとした広域周遊促進事業(周遊グッズ作成)			
事業区分:	情報コンテンツ作成事業	事業期間:	令和 3 年度 ~ 令和 4 年度
事業費:	令和2年度: 0千円	令和3年度: 1,294千円	令和4年度: 500千円
事業概要:	戦国大名毛利氏と益田氏との関係をテーマとした広域周遊「萩・石見空港—益田市—北広島町(吉川氏関連)—安芸高田市(毛利氏関連)—三原市・竹原市(小早川氏関連)—広島空港」を促すため、チラシ、マップ、周遊グッズを作成する。毛利元就没後450年の令和3年度より実施。		
具体的な指標:	益田市の観光客入込み数		
目標値:	平成 30 年 919,892 人 ⇒ 令和 8 年 1,500,000 人		
事業㉔: 観光関連事業者向け日本遺産研修			
事業区分:	人材育成事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費:	令和2年度: 460千円	令和3年度: 460千円	令和4年度: 460千円
事業概要:	観光関連事業者向け日本遺産研修。日本遺産による観光振興等の専門家を招致し、その活用等についての研修を開催する。講師謝金3万×3回、講師旅費7万×3回、テキスト作成10万、会場使用料2万×3回。		
具体的な指標:	研修受講者の理解度(アンケート)		
目標値:	令和 2 年度 0 % ⇒ 令和 8 年度 80 %		

(6) 地域文化財総合活用推進事業 (日本遺産)

事業②⑥:	ビジターセンター (仮称) 設置及び活用整備事業		
事業区分:	活用整備事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費:	令和2年度: 0千円	令和3年度: 26,000千円	令和4年度: 2,000千円
事業概要:	<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産のテーマを学び・体感できるビジターセンター (仮) の設置 ・企画展の開催及びウォークイベントなどの関連プログラムの実施 		
具体的な指標:	ビジターセンター入館者数		
目標値:	平成 30 年度 0 人 ⇒ 令和 8 年度 1,000,000 人		
事業②⑦:	益田「中世の食」に携わるおもてなし人の育成		
事業区分:	人材育成事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費:	令和2年度: 210千円	令和3年度: 210千円	令和4年度: 210千円
事業概要:	高校生等を対象としたおもてなし人養成講座		
具体的な指標:	講座修了者による活動件数		
目標値:	令和 2 年度 1 回 ⇒ 令和 8 年度 24 人		
事業②⑧:	日本遺産シンポジウム		
事業区分:	普及啓発事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費:	令和2年度: 700千円	令和3年度: 700千円	令和4年度: 700千円
事業概要:	日本遺産について、何が評価されたのか、認定されたことでどのような事業を推進するのかなど、広く市民に普及啓発するシンポジウムを開催する。講師謝金(約85千円)、講師旅費(約200千円)、ポスター・チラシ印刷費(約300千円)、会場代(約100千円)。		
具体的な指標:	参加者の益田市の日本遺産についての取組への理解度(アンケート「理解できた」以上)		
目標値:	令和 2 年度 60 % ⇒ 令和 4 年度 80 %		
事業②⑨:	日本遺産普及啓発バスツアー(モニターツアーを兼ねる)		
事業区分:	普及啓発事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費:	令和2年度: 780千円	令和3年度: 780千円	令和4年度: 780千円
事業概要:	日本遺産について、市民に普及啓発することを目的に、構成資産をまわるバスツアーを実施する。各年度12回。バス借り上げ料(約65千円/1回)		
具体的な指標:	参加者の益田市の日本遺産についての理解度(アンケート「理解できた」以上)		
目標値:	令和 2 年度 60 % ⇒ 令和 4 年度 85 %		
事業②⑩:	日本遺産を学ぶ講座(ガイド養成講座を兼ねる)		
事業区分:	普及啓発事業	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費:	令和2年度: 230千円	令和3年度: 230千円	令和4年度: 230千円
事業概要:	日本遺産について、市民に普及啓発することを目的に、より深く理解していただくための講座を開催する。各年度6回。資料印刷代(約5千円/1回)、ポスター・チラシ印刷費(約200千円)。		
具体的な指標:	講座修了者によるガイド活動件数		
目標値:	令和 2 年度 0 回 ⇒ 令和 8 年度 100 回		

(6) 地域文化財総合活用推進事業 (日本遺産)

事業⑳： 日本遺産検定 (日本遺産ガイド認定試験を兼ねる)			
事業区分：	普及啓発事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 5,000千円	令和3年度： 300千円	令和4年度： 300千円
事業概要：	日本遺産について、市民に普及啓発することを目的に、その理解度をはかり、市民の関心を高めるために、検定試験を実施する。認定ガイドの試験を兼ねる。初年度は学習のためのテキストを作成する(委託料5,000千円)。問題作成及び採点の委託料(約200,000円)等。		
具体的な指標：	認定ガイドの人数		
目標値：	令和 2 年度	0 人	⇒ 令和 8 年度 10 人
事業㉑： 市広報での特集及び連載記事			
事業区分：	普及啓発事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 400千円	令和3年度： 200千円	令和4年度： 200千円
事業概要：	日本遺産について、市民に普及啓発することを目的に、市の広報誌『広報ますだ』にて日本遺産についての特集及び連載記事を掲載する。印刷製本費(約24,000円/1頁)。		
具体的な指標：	日本遺産シンポジウム参加者の益田市の日本遺産についての理解度(アンケート「理解できた」以上)		
目標値：	令和 2 年度	60 %	⇒ 令和 8 年度 80 %
事業㉒： 課題解決型関係人口創出事業 (中世歴史ファンの創出)			
事業区分：	普及啓発事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 2,800千円	令和3年度： 2,800千円	令和4年度： 2,800千円
事業概要：	中世益田のまちづくりや地域づくりに継続して関わり続けてもらえる仕組みをつくる。主に首都圏でのワークショップの開催と現地での交流を通じて継続した関係づくりを構築する。		
具体的な指標：	高津川MATSUYOプロジェクト加入者者数 (毎年2人加入)		
目標値：	令和 2 年度	6 人	⇒ 令和 8 年度 18 人
事業㉓： 姉妹都市交流を活かした関係人口創出事業			
事業区分：	普及啓発事業	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 1,000千円	令和3年度： 1,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要：	益田市と姉妹都市提携している中国の寧波市は、中国明朝の国際貿易港であり、雪舟が最初に渡った場所である。現在もグラントワの合唱コンクールに毎年、合唱団が来訪しており、その機会に益田市内の歴史スポットをまわっていただくことで関係を深め、外国人誘客につなげる。		
具体的な指標：	外国人宿泊者数		
目標値：	平成 30 年	397 人	⇒ 令和 8 年 2,800 人

(7) その他事業

事業①:	観光商談会への参加		
実施主体:	益田市観光協会	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業概要:	インバウンドを中心としたエージェントとの商談会		
事業②:	キャッシュレス化の推進		
実施主体:	益田商工会議所	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	キャッシュレス対応店舗の推進		
事業③:	高津川流域特区通訳案内士事業推進協議会との連携		
実施主体:	益田市観光協会ほか	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業概要:	通訳案内士の育成及び外国人旅行者に対するサービス向上		
事業④:	景観まちづくり出前授業		
実施主体:	益田市	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業概要:	景観やまちづくりに対する関心や意識を深めるため、専門的な見識を持つ講師を迎え、6~10時間程度のプログラムを実施し、小中学校を対象とした景観学習を行う。		
事業⑤:	景観啓発講座		
実施主体:	益田市	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業概要:	意識醸成や重点地区の指定に向け、地区住民を対象とした勉強会や研修会、また先進地視察など、景観啓発講座の実施。		
事業⑥:	市外の益田市出身者との継続的な交流		
実施主体:	益田市ほか	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業概要:	東京、近畿、広島の各益田会と連携し、ふるさと益田の取組等を応援して頂く		
事業⑦:	雪舟庭園の宴開催事業		
実施主体:	益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業概要:	雪舟庭園でのお茶席、和楽器公演、ライトアップを同時開催する		
事業⑧:	雪舟さんまつり		
実施主体:	吉田地区まちづくり推進協議会 雪舟さんまつり実行委員会	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業概要:	小僧さん行列や各種イベントを実施。当日は益田市立雪舟の郷記念館への入館が無料。		
事業⑨:	雪舟旬遊イベント		
実施主体:	益田市立雪舟の郷記念館	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	記念館内の本庭・八景園のライトアップを背景にコンサートを楽しむイベント。		
事業⑩:	ぶら雪舟		
実施主体:	益田市立雪舟の郷記念館	事業期間:	令和 2 年度 ~ 令和 年度
事業概要:	記念館をスタートに周辺の史跡等を巡るまち歩きイベント。		

(7) その他事業

事業⑪：	石陽講座		
実施主体：	益田市立雪舟の郷記念館	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 年度
事業概要：	記念館を会場に益田市の歴史や文化について学ぶ連続講座。		
事業⑫：	第18回雪舟サミット		
実施主体：	雪舟サミット実行委員会（事務局：岡山県総社市）	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 2 年度
事業概要：	雪舟の功績を顕彰するとともに、友好の輪を広げることを目的に開催。隔年開催だが、令和2年度は雪舟が生誕して600年の節目の年となることから、生誕の地と言われる岡山県総社市で開催。		
事業⑬：	景観まちづくり事業		
実施主体：	益田市	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 3 年度
事業概要：	地域の特徴に即した赤瓦の街並み形成及び外壁(外観)等の改修に対する補助金、また、まちづくり活動を行う団体や個人に対し補助金を実施。		
事業⑭：	中世益田風景街道(シーニックバイウェイ)整備事業		
実施主体：	地元住民及び商店会等	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 2 年度
事業概要：	益田氏の遺産が数多く伝わる益田地区等において、益田氏の家紋を染め抜いた暖簾を沿線各戸が掲げて景観を創出する。地元の地域自治組織または商店会が調整、展示等の実務を行う。		
事業⑮：	日本遺産を活用した地域内交通システム（キャッシュレス化含む）の検討及び構築		
実施主体：	交通機関等	事業期間：	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度
事業概要：	インバウンドを見込んだ地域内交通システムの見直し及びキャッシュレス化の推進		